

第3学年 社会科学習指導案

単元名

「人々のしごととわたしたちの暮らし」

～スーパーマーケットで働く人～

(全12時間)

1 単元について

私たちは様々な人々の仕事によって、支えられ生活している。もちろん子どもたちも様々な人々の支えによって生活し、成長している。しかし、働く人の姿は見るものの、どんな工夫や努力をしているのかはあまり知らない。また、その仕事が自分たちの生活と関わっていることには気づいていないことが多い。この単元では、農業生産に携わる人、販売に携わる人など、身近に見たり接したりする仕事について見学やインタビューを通して調べ、働く人の工夫や努力が自分たちを含め人々の暮らしを支えていることをとらえさせたい。また、働く人が願いをもち工夫や努力をしていることを知ることで、働くことへの関心や理解を深めたい。

「スーパーマーケットで働く人」では、多くの家庭が利用しているスーパーマーケットの特徴を見学を通して見つける。そして、スーパーマーケットで働く人が、大きな施設と多様な品揃えで多くの消費者のニーズや願いに合わせてようと様々な工夫をしていることをとらえさせたい。そして、その働きの上に自分たちも便利な消費生活を送っていることをとらえさせたい。

他方、地域の店を取り上げる。スーパーマーケットやコンビニエンスストアの陰で売り上げが減っているが、子どもたちがお菓子や文房具を買い求める地域の人に焦点を当てる。それらの地域の店は、人とのつながりを大切にし細やかな対応で空気のように存在している。子ども達は当たり前前に感じているが、そこには便利さとは違うありがたさがあり、自分たちの暮らしを静かに支えてくれている安心感がある。

スーパーマーケット、地域の店、それぞれの店の特徴や工夫や願いを考え、良さに気づくことが、人々の仕事に対する理解、自分たちの生活との関わりに関心をもち、さらに知ろうとする意欲になるものと考えたい。

2 単元の目標

(1) 販売に携わる人々の実際に関心をもち、自

ら働きかけて意欲的に調べようとする。

(関心・意欲・態度)

(2) 販売に携わる人々は、消費者のニーズや願いに合わせて工夫していることを考えることができる。

(思考・判断)

(3) インタビューをはじめとした体験活動を通して、働く人の様子を具体的に観察・調査・見学メモやカードにわかりやすく表現することができる。

(観察・資料活用の技能・表現)

(4) 販売に関わる仕事には、それぞれの特色があり、携わる人々は、販売の工夫や努力を続けていることがわかる。

(知識・理解)

3 研究と関わって

(1) 指導計画、単元構成の工夫

ねらいにせまる人物の教材開発

学校の前にある「ながせ店」のおばさん和田さんを取り上げる。学用品からお菓子、雑誌など多くの商品が並ぶ店は子供たちにとってだけでなく地域の人々にとって身近な店である。しかし、子どもたちの販売に携わる働く人イメージは、大型店であることが多い。

そこで、ながせ店の和田さんを通し、「盆と暮れに美女餅を安売り」することは地域の人がほしい物を安く提供したい、親せきや帰ってきた人が喜んでくれることを喜びにしているという地域の店ならではの仕事像・人物像に触れさせたい。

社会的事象の意味をとらえる指導計画の作成・単元構成の工夫

販売に携わる人の工夫や努力を考えるために2回の見学を位置づける。見学では子どもたちは、施設や設備に着目することが多いが、「なぜ人が入れるような大きな冷蔵庫や冷凍庫があるのだろう」と考えることで、多くの働く人の願い、消費者への思いがあることに気づかせたい。見学先は、買い物調べをもとに利用の多い大型店を全員で見学する。次に子どもたちがよく利用する家の近くの店をグループや個人で見学する。2回の見学によって、比較して見ることができるようになり社会事象の見方考え方の広がり「店以外のバックヤードでも働いて

いる人がいるんだ」「小さくて品物が少ないな」というような気づきから、「ぼくは大きい店のほうが好きだ、大きい店があれば地域の小さな店はなくてもいいかな」などその違いの意味に関心を持たせたい。そして、大型店には多くの種類をそろえ便利に利用してもらいたいという願いがあること。地域の店の、顔や名前はもちろん家族構成や好みまでしり、人とのつながりを大切にきめ細かく対応している努力に気づかせたい。

(2) 学習活動の工夫

ねらいを明確にした学習活動の工夫

課題作りは、長瀬店を見学したグループがインタビューによって見つけた「盆と年末には美女餅を安売りするそうです」を取り上げる。前に見学した大型店では、地域の特産の美女餅が売られていたが片隅で安売りはしていない、「なぜ、長瀬店では安売りしているのだろう」と考えさせる。また、「安売り」見学時から気づかせたり、安く売るとお客さんはうれしい、店のもうけは少ないなど理解させておきたい。

仲間と練り合う交流活動の工夫

「賞味期限ぎりぎりのパンの安売り」に対して、「つきたての美女餅を安売りするのはなぜか」を課題にして考える。盆や正月に親戚や遠く離れて生活している子ども達に食べさせたいおみやげにしたいという需要に応える長瀬店の工夫である。また、それだけでなく、地域の人や親戚を迎える、おみやげにするなど、人とのつながりを大切にするお手伝いのような役割を持つ「安売り」である。資料「月別美女餅売り上げ」からは、8月と12月の売り上げが多くなっていることをつかませる。「美女餅を買う理由」からは、美女餅が地域の名物として、おみやげやもてなしに使われていることをつかませる。そこで、朝日に住む人や遠くへ行っている人の思いにまで考えを発展させたい。そして、その思いをお手伝いする行為が「長瀬店の美女餅安売り」であることに気づかせたい。

「安くするとお客さんがたくさん来る」だけではない、朝日に住み迎える人と久しぶりに帰って来る人、それぞれの気持ちに共感することを喜びとしている行為の一つが「盆と年末の美女餅安売り」なのである。子どもたちが「へえ、長瀬店の和子さんはそんな思いで売ったの

か」と感じるような出口にしたい。本時で言葉での表現にはならないと思うが、スーパーマーケットとの違いは、顔や名前まで知り、地域の人の喜びに寄り添って商売をしていることをとらえさせたい。

(3) 指導・援助、評価の工夫

調べ考える指導・援助の工夫

スーパーマーケットの見学のあと、自分たちの生活に身近な店を取り上げ見学したり、新聞を作ることで、課題意識をより強くもち意欲的に追究できると考える。「和子さんの喜びは、それだけではないよ」と、練り合う場面では、見学でのインタビューを「どんなことがうれしいことだった」と、思い起こさせることで、和子さんが人とのつながりに喜びを感じていることに気づかせる。また、考えを持ってない児童には、仲間の意見に対してどう思うか問うことで、考えをふかめさせたい。

学びを確かにする相互、自己評価の工夫

高学年が課題提示直後に自分の考えをノートに書くことにかわり、3年生では書くことに時間がかかるので、となりの子に自分の考えを教えることにする。それは課題に対しての自分の考えを確かなものにし、考えが持てない子には自分の考えを持つヒントになると思う。また、相手の考えと自分の考えを比べることで、考えが広がったり、相互評価、自己評価になると思う。

授業の最後には学習のまとめをノートに書かせることで、自己の考えの高まりや変容を認識させ自己評価としたい。

また、教科係が授業のはじめに学習の目標を言い、授業がおわったところで評価するようにしている。